

私立大学研究ブランディング事業

平成29年度の進捗状況

学校法人番号	131085	学校法人名	法政大学		
大学名	法政大学				
事業名	江戸東京研究の先端的・学際的拠点形成				
申請タイプ	タイプB	支援期間	5年	収容定員	25,715人
参画組織	国際日本学研究所、エコ地域デザイン研究センター、文学部、デザイン工学部、法学部、経済学部、社会学部、国際文化学部、人間環境学部、現代福祉学部、キャリアデザイン学部、理工学部				
事業概要	江戸東京に蓄積され現在にも生きる固有の自然・歴史・文化・人的資源の発掘と再評価を通じて、この都市が文化的・空間的に持続している理由を解明し、そこから持続可能な地球社会を構築するための方法と理論とを導き出す。その知見を地球社会の諸課題を解決する〈実践知〉として育み広める教育研究拠点(仮称)「江戸東京研究センター」を設立し、日本文化の国際的発信者としての法政大学のブランドイメージを確立し展開する。				
①事業目的	本事業の目的は、地球社会の課題解決に向けた地の創出と自立的な市民の育成によって世界の持続可能性に貢献することを謳う〈法政大学憲章〉に則り、持続可能な社会(都市)のあり方を、江戸東京をモデルに、エコ地域デザイン研究センター(理系)と国際日本学研究所(文系)が連携し、学際的な研究体制のもとで国際的な視座・視点も加えながら探求することである。				
②平成29年度の実施目標及び実施計画	<ul style="list-style-type: none"> 江戸東京の基層構造に関する研究ならびに事業インフラの整備を目標とする。 学内外の研究者が文理の壁をこえて行うに研究会、シンポジウム等を開催し、その成果を社会に向けて発信する。 他の研究機関や博物館との研究ネットワークの構築を行う。 学内外における広報活動を行うためにwebサイトを作る。 「事業計画書」に記載した上記内容をふまえ、4つの研究プロジェクトごとに具体化させた「各年度の実施目標及び実施計画」を、江戸東京研究センターwebサイトへ掲載した。 				
③平成29年度の事業成果	<p>◆本事業を社会へ広く発信するためのWebサイト構築とパンフレット制作を行った。</p> <p>◆研究活動に必要な地図、絵図、鳥瞰図等の歴史的資料及び書籍255冊を購入した。また、資料を広く社会に公開することを前提に電子化作業に着手した。</p> <p>◆採択決定後のスムーズな事業実施のため、採択決定前から国際日本学研究所、エコ地域デザイン研究センターとの協働研究活動を開始し、研究会・シンポジウムを実施した。</p> <p>① エリーデューリングをかこむ学習と懇談の会「時間的形態としての大都市：東京のパラドックス」参加者37名 ② 「水都・江戸東京のグリーンインフラ～東京五輪に向けて江戸から何を学ぶか～」参加者123名 ③ チェリー・オクを囲む学習と懇談の会「サイボーグ都市・東京」参加者23名</p> <p>◆採択決定後、設立を広く周知し、法政大学が標榜する「新・江戸東京学」の枠組みを提起するためのシンポジウムやギャラリー展示などを実施した。</p> <p>① シンポジウム「江戸東京の基層／古代・中世の原風景を再考する」平成30年1月20日：参加者171名。本学関係者と、葛飾区産業観光部ならびに府中市郷土の森博物館の研究者が登壇した。 ② 展示およびシンポジウム「続・TOKYO METABOLIZING(新しい居住都市のイメージ)展」平成30年2月18日～3月4日：参加者約200名。研究展示を東京工業大学、横浜国立大学と共同で発表した。また、会場においてシンポジウム「都市東京の近未来」を開催した。 ③ 設立記念国際シンポジウム「新・江戸東京研究～近代を相対化する都市の未来～」平成30年2月25日：参加者441名。国内外の著名な研究者を招き、江戸東京研究の新たな枠組みやその可能性について活発な議論が行われた。</p> <p>◆成果指標に対する達成度について</p> <p>① Webサイト作成 12月22日に「江戸東京研究センターWebサイト」を公開した。</p> <p>② シンポジウム開催による本事業開始の公表 採択決定前3回、採択決定後3回のシンポジウム・展示会等を開催した</p> <p>③ 博物館や他研究機関とのネットワーク構築 博物館や地方自治体関係者がシンポジウムに登壇し、展示会においては他大学とも協働を行った。</p> <p>④ 学内外の研究者に対しての共同研究の呼びかけや地域住民への事業説明会の実施 国際シンポジウムにおいて海外の著名な研究者が多数登壇した。地域住民への事業説明会は水都プロジェクトの「外濠市民塾」を中心に今後実施していく。</p> <p>⑤ 意見聴取・イメージ調査 シンポジウムに委員が参加し、登壇者・参加者からの意見を直接聴取することができた。イメージ調査については、シンポジウム参加者にアンケートを行うことで当事業の認知度、イメージ浸透度の把握を行っている。</p>				

<p>④平成29年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>【自己点検・評価】 [高い評価を受けた事項] 目標の設定および実施計画は妥当かつ適切で、事業実施についても目標通り実施されているとの評価であった。特に、採択後短時間のうちにWebサイトを開設した点、シンポジウムや展示会等によって研究成果を社会に公表した点、研究のみならずギャラリー展示等の実践を志向した活動を行った点、文理融合の観点・手法の導入、海外の研究者との連携、他大学や関係諸団体とのネットワーク構築についておおむね高い評価を得た。</p> <p>[指摘事項・要望事項] 研究成果の発信について、より一層の「わかりやすさ」「詳細さ」「スピード」「多様化」について意見が寄せられた。また、学生、地域住民、若手研究者など、より多様なステークホルダーとの協働への期待が示された。研究成果の教育への反映についても期待が示された。</p> <p>【外部評価】 目標の設定および実施計画は妥当かつ適切で、事業実施についても目標通り実施されているとの評価であった。国際シンポジウム開催による視点の多角化、江戸東京学の領域を中世以前にまでさかのぼって研究対象としている点、文理融合をはじめとする学際的な視点について高い評価を受けた。一方、以下のような指摘・要望が寄せられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究成果の公開の際、一般市民にも親しみやすい表現が求められる。 ・研究テーマについて深掘りする前に、まずテーマを客観的に分類し、位置づけを行うことが必要なのではないか。
<p>⑤平成29年度の補助金の使用状況</p>	<p>平成29年度事業予算の執行にあたっては、「私立大学研究ブランディング事業計画書」に基づく事業の実施に直接必要な経費を、補助要件及び学内規程を遵守しつつ下記内容のとおり執行した。</p> <p>【研究費】 海外現地調査出張旅費(タイにおける水都と水の原始的な集落調査)、研究用資料費(約255冊分)、資料電子化用消耗品費、等。</p> <p>【広報普及費】 シンポジウム及び研究会開催費6件分(アルバイト関係支出を含む)、私立大学研究ブランディング事業 兼 江戸東京研究センターwebサイト構築費、江戸東京研究センター紹介パンフレット製作費、等。</p> <p>【その他経費】 研究補助者に係る費用、江戸東京研究センター運営委員会(平成29年11月～平成30年3月:合計5回実施)実施費用、等。</p>